

2025年大阪・関西万博の成功に向けた 関西広域連合の使命

関西広域連合会長／和歌山県知事

仁坂吉伸
よしのぶ



広域的課題に地方自らが取り組む

関西広域連合は、中央集権体制と東京への一極集中を打破し、地域の自己決定、自己責任を貫ける分権型社会を実現するため、府県域を越える広域的課題にも地方自らが課題解決に取り組むことのできる責任主体として、全国に先駆けて、2010年12月に発足した。

現在、関西広域連合は、滋賀県、京都府、兵庫県、大阪府、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市の8府県4政令市で構成し、①広域防災②広域観光・文化・スポーツ振興③広域産業振興④広域医療⑤広域環境保全⑥資格試験・免許等⑦

広域職員研修の7つの広域事務を共同処理している。設立以来、毎月1回は各首長が集まり意見交換しながら、カウンターパート方式による迅速な被災地支援、ドクターヘリの共同運航、広域インフラの目標設定、新型コロナウイルス対策の連携・協力など「ONE関西」として、数多くの実績を挙げてきた。

関西の魅力の世界に発信するために

このような中、関西を世界にアピールし、関西の経済を浮揚させる絶好の機会である2025年大阪・関西万博を迎える。大阪・関西万博は、単なる大阪万博ではない。関西万博という名をいただいているからには、開催地の大阪

府市をバックアップするだけでなく、関西全体で万博を盛り上げ、成功させる取り組みを行っていききたい。このため、各府県市で一斉に万博を盛り上げるためのイベントや事業を行って、万博成功のために十分な役割を果たしたい。

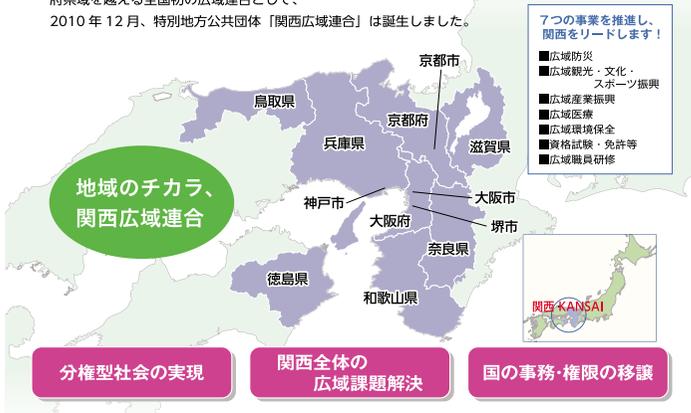
また、世界中から集まる来場者に会場のみならず関西全体にお越しいただき、関西の歴史や文化、自然や風物をじっくり味わっていただけるような工夫を関西全体で行っていききたい。今回の万博は、これまでの万博に比べ面積が割と小さい。それはそれで非常にインパクトの強い会場設計を行える素地を提供することになると期待するが、対岸の大阪市中心部を入れても、多くの来場者をその狭い空間だ

(注)カウンターパート方式：被災した自治体に特定の応援する自治体を割り当て、警察・消防・医療の派遣、支援物資の送付、被災者の受け入れ等の各種の支援を重点的かつ継続的に行う方式

図表1 関西広域連合Map

関西から新時代をつくる!

関西から新時代をつくる! この志のもと、関西の府県と政令指定都市が集結し、府県域を越える全国初の広域連合として、2010年12月、特別地方公共団体「関西広域連合」は誕生しました。



図表2 万博会場における関西広域連合パビリオン位置図



提供：2025年日本国際博覧会協会

2025年大阪・関西万博の立地する関西の魅力は、何といてもその文化と歴史、さらにはそれらに彩られた人々の暮らしであると思う。これを世界にアピールし、来場者はもちろん世界の人々の心をわしづかみにすることによって、関西が歴史的に引っ張ってきた日本そのものの魅力を世界に発信することが、我々の使命であると思う。

誓いするものである。

を整備していくことをお

けで満足させることは困難だろう。従って、ぎゅっと濃縮された会場の空間と、魅力に富む周辺の関西のあちらこちらを行ったり来たりしながら、厚みのある万博を経験してもらいたいと考えている。

そこで、万博会場内には会場のゲートウェー的な位置を占める大阪府市のパビリオンと隣接して関西広域連合のパビリオンを設け、ここで世界に誇る関西のアピールを行うとともに、各構成府県市がそれぞれの企画でその

魅力を最大限に発信できるような情報提供を行い、それを経験した来場者がその素晴らしい経験を各府県市でまた追体験できるように、個々の府県市に誘導していくという仕掛けを作っていきたい。従って、パビリオンでは、最新の技術を用いてバーチャルな体験をして、個別の府県市ではリアルな体験をお楽しみいただきたい。このようなバーチャルとリアルな体験を重ねていくことによって、また新しい体験を求めて会場に足を向けてもらうという

うきつけとしたい。

もちろん、このためには、会場と関西各地を結ぶ交通ネットワークや宿泊施設が整備されている必要がある、このためのインフラとともに、国にお願いして整備を進めていただいているところである。

また、それぞれの地域において、リアルな体験を心置きなく楽しんでもらえるような地域の魅力を発信できる様々なソフトウェア